

国際大学地域企業活動参加プログラムとOR ～ MBA教育、コミュニティー、そしてIAC ～

01204710	国際大学	住田 潮	SUMITA Ushio
INFORM 会員	国際大学	ジェイ・ラジャセкера	RAJASEKERA Jay
01506910	アリス・エフ	橋場 憲明	HASHIBA Noriaki
02701150	国際大学	* 山川 茂孝	YAMAKAWA Shigetaka

1. ビジネス教育における「実践」の重要性 ～国際大学地域企業活動参加プログラム～

国際大学国際経営学研究科では、学生が企業の活動を見聞し分析することによって、教室で学んだ理論を現実のビジネスに適用する実践力の修練の場として、大学周辺地域の数々の企業のご協力により、地域企業活動参加プログラム（LBCIP）と呼ばれる新たなカリキュラムを6年前にスタートさせた。

このプログラムは1年次生を対象に、年間を通して行われる。学生は6～7人のグループに分かれ、それぞれの対象企業を数度にわたって訪問し、ディスカッションし、ある特定の企業活動に焦点をあわせ、その問題点を洗い出し、解決を試みる。

MBA学生にとっては、理論と実践の狭間を埋める重要なカリキュラムであり、また、学生の6割が留学生である国際大学においては、日本の産業を実体験できる数少ないチャンスとなる。さらには、一年次の地域企業活動参加プログラムで得た問題を膨らませ、修士論文のテーマとして発展させる学生も多い。

2. 地域企業活動参加プログラムにおけるOR教育の役割

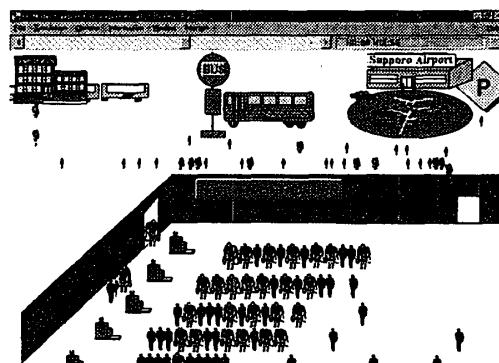
国際大学国際経営学研究科におけるOR関連の科目としては、一年次の経営科学、オペレーションズ・マネジメント、二年次のシステム・シミュレーション論、企業データとプロセスモデリング、サービス業務管理と関連応用ソフトウェア、などがある。科目名からおわかりのとおり、一年次は手法の理解を中心に、二年次はそれらを業務・プロセス管理の道具として応用することを主眼としている。特に、近年の情報処理技術の進歩にともない、シミュレーション・ソフト、統計ソフト、ワークフロー・マネジメント・ソフト、データベース・ソフトなど、実際の業務に用いられる様々なソフトウェアを学生に提供し、OR手法を活用する訓練を行っている。

さて、OR教育と地域企業活動参加プログラムとの関わりであるが、大学周辺地域には製造業が多いこともあり、生産ラインや在庫管理などの改善をプロジェクトテーマとして選択する学生も多く、OR手法は基本ツールとして多いに利用されている。その他、ビジネス・プロセス・リエンジニアリングの実習を行う目的で、サービス業の業務分析にOR手法を用いる学生もいる。

過去に用いられたOR手法
LP、シミュレーション、
統計予測、在庫管理、非線
型計画、スケジューリング、
など

3. 事例集 ～シミュレーション・モデルを中心として～

地域企業活動参加プログラムに参加する学生は、国際大学に入学し、初めてORの手法を学んだ者も少なくなく、いわゆるOR初心者が実際に企業でプロジェクトに参加するためには、学習した手法・理論を実施に移すための強力なサポートツールが必要となる。先に述べたソフトウェアの数々はそのツールであるが、特に我々が採用しているシミュレーション・ソフトは、サンプルデータ処理、モデリングなどにGUIをふんだんに使用し、プロセス管理の基本概念が理解されていれば、初心者にも簡単に実用レベルのモデル構築を可能にする。また、このソフトは実行時にアニメーションを生成し、視覚的にプロセスの問題点の発見に貢献する。このシミュレーションソフトを用いたプロジェクトには、組み立てラインの改善、飛行場のカウンター業務の効率化、病院待合室の設計、など、大学のカリキュラムという時間的制約の中において、限りなく実用レベルのモデルを構築した例がいくつもあり、その一部を紹介する。



学生の作成したモデルの一例

4. 新ソフトウェア研究開発センター IAC の発足 ～新たな情報発信の根拠地として～

国際大学に関するもう一つの話題としては、今年5月に株式会社アリス・エフと共同で開設されたソフトウェア研究開発センター、IAC (IUJ Aris・F Software R&D Center) が挙げられる。このセンターは、国際化時代の情報発信の根拠地となるべく発足し、ソフトウェア開発やコンサルティングなどを通して地域企業との交流をはかっていく。

IACの研究員の多くは、国際大学の教員との兼任で、IACの研究・開発の成果を学生へフィードバックし、最新の情報を提供できると期待している。特に、IACのコンサルティング活動で蓄積されたビジネスノウハウは、現場の知恵をクラスに紹介する絶好の材料となりうるだろう。

また、コンピュータネットワークを駆使したデータベースなどの高度情報システムが企業で導入されるにつれ、LBCIPの実習のテーマとして、データベース技術を用いたプロセス管理など、授業ではカバーしきれない情報技術を用いたプロジェクトを希望する傾向が出てきている。もちろん、現状ではそのような希望に対してはテーマの変更を促すしかないが、IACの体制が整い次第、技術サポートとしてMBA教育に貢献したい。本稿では、新しい産学共同研究センターIACの活動の概略を紹介し、将来のコミュニティ像を展望したいと考えている。

